その技能で、誰の仕事を変えたいか。

2020年11月9日発表｜企業での実践から開発したプログラムを、いまの一件へ。

人物と分析業務の場面は、使い方を伝えるための説明図です。

学びたいことが、
今日も日々の仕事に
埋もれてしまう。

誰に、どんな変化を
届けたいか。
使う場面から描く。

実際に試せる一部分と、
途中の手応えを
つなぎます。

いま直面する困難から、支援を考える。

クライアントのプロジェクトで観察した状況を、2020年の発表に記しました。

すでに挑戦を始めた場面

解けない問題に直面し、
具体的な痛みを経験している。

変えたい状態が
自分の経験と結びついている。

日々の仕事を優先する場面

既存業務を優先する中で、
挑戦の痛みをまだ体感していない。

経過報告や過去の成功の紹介に
偏る状況が見られた。

本人が困っている一件と、望む場面を結びつける訓練へ。

経験のある支援者が、途中の見本や助言を用意することも、開発の核です。

違和感から、望む仕事の場面を描く。

「先取」は、取り組みの先の場面を思い描き、いま始める意味を考える当社の表現です。

01

違和感を起点に

本人が実際に困る
仕事の場面を捉える。

→

02

相手と自分の先へ

誰が何をできると
役立つかを描く。

→

03

試す一部分へ

実際に取り組める
行動と支援を選ぶ。

途中で分かったことや相手の反応から、望む場面も描き直す。

当時の構成：ベーシックは小さな違和感から、アドバンスは競争上の位置や資源まで。
既存業務を支えるリーダー育成のオプションも設けていました。

当時の構成を示しています。現在の募集・提供条件は、お問い合わせください。

相手が決められる場面まで、絵を進める。

以下は、使い方を伝えるために組み立てた例です。原発表の実践事実とは区別します。

「分析を覚える」から、
欠品の理由を捉え、
次の発注を決める場面へ。

まず一つの商品を選び、
小さな分析を
同僚と見比べる。

相手の記録や反応から、
必要な分析と、
次に学ぶことを整える。

練習の時間と相談先をそろえ、試せたこと・助けが必要なことを見直します。

「やる」と決めた一件を、始められる形へ。

予定していた仕事と実際に起きたことから、気になる観点を選べます。

必要性への納得	本人にとって、何につながる仕事か。
目指す状態	誰の、どの仕事が、どう変わるとよいか。
最初の一歩	いつ、どの場面で、何を試すか。
実行できる条件	時間・道具・情報・相談先はそろうか。
懸念を話せる関係	気がかりや、違う考えも話せるか。

必要な観点から、本人の一歩と周囲の支援を一組に。

図解資料「『やる』と決めた仕事が進まないときに」を読む →

続ける条件を見て、小さな一歩を選ぶ。

先の価値、繰り返す場面、途中の手応えを、本人の仕事に合わせて考えます。

繰り返す状況に目を向ける

Lallyら（2010）は、96人が選んだ飲食・活動などの日常行動を、同じ状況で毎日行う12週間の過程を調べました。

実行と自動性を自己報告し、自動性の高まり方には個人差がありました。日常行動の知見を、職場で繰り返す機会や支援を考える手がかりにします。

予定していた仕事を、一つ

どの場面で、
何をする予定だったか。
実際は、どうなったか。

本人の話や記録を見て、気になる観点を一つ。本人の次の一歩と、周囲が用意する支援を考えます。

行動の種類と仕事の条件に合わせて、試す範囲と確かめ直す日を選びます。

一次研究：Lallyら（2010）

予定と実際を、図解で見比べる →